

地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)

新しい経口内服剤による C 型慢性肝炎治療の時代を迎えて ～C 型慢性肝炎・代償性肝硬変患者さんをご紹介ください～

企業長・院長 荒川 泰行

C 型肝炎は、わが国では最大の慢性感染症であって、肝硬変・肝がんの最大の原因となっています。C 型肝炎の最終治療目標は、C 型肝炎ウイルス (HCV) の持続感染状態を完全制圧することによって肝硬変・肝がんへの進展を阻止することではありますが、最近では C 型肝炎・肝硬変患者の高齢化が目立ち、このことが他の先進諸国と比べて肝がん発生率の高い要因の一つになっています。

わが国では、「肝炎対策基本法」が 2010 年に施行され、肝炎ウイルス検査の推進と同時に、肝疾患診療ネットワークの構築、新規治療法の開発や医療費助成度事業などが積極的に実施されるようになっていきます。

最近、C 型慢性肝疾患に対するインターフェロンフリーの新しい経口内服剤である複数の直接作用型抗ウイルス薬 (DAA : Direct Acting Antivirals) が相次いで登場し、これまでのペグ・インターフェロンとリバベリンの併用治療の効果を上回る高い SVR が達成でき、しかも全身性副反応の少ないことなどが明らかとなり、インターフェロン治療に伴う様々な「壁」を乗り越えられるようになりました。

特に、これまで高齢者では、高ウイルス療法の効果が高く、副作用の発生頻度の高いことから、発がんリスクが高いにもかかわらず治療適用や実際の治療に難渋することが多かった事情がありましたが、この新しいインターフェロンフリーの治療の導入によって高齢者 C 型慢性肝炎・代償性肝硬変患者の治療適用や治療効果が大きく様変わりしました。

これら一連の効果の高い新規治療薬の導入と開発が期待できる現時点の緊急性のある課題は、新規の HCV キャリアの拾い上げ、治療に必要な HCV キャリアが適切に受療へ結びつくこと、すなわち肝炎ウイルス検査受診率向上と併せて、検査後の医療機関受診率と治療導入率の積極的な推進であります。

当医療センター消化器内科では、荒川泰行、天木秀一、阿部真久の 3 人の日本肝臓学会認定専門医師が外来診療を担当して、C 型慢性肝炎・代償性肝硬変の

新しい抗ウイルス治療に積極的に対応しておりますので、地域医療連携センターを通じて、患者さんのご紹介を是非よろしくお願い致します。

(外来担当表)

月	火	水	木	金
荒川 泰行		荒川 泰行		阿部 真久
		天木 秀一		

※月曜日、水曜日につきましては、勤務人の方など午後なら受診できるという方には、午後の初診外来をご案内することも可能です。地域医療連携センターにご相談ください。

皮膚科よりお知らせ

現在皮膚科外来については、外来診療体制の変更に伴い、1日の受け入れ患者数を制限させていただいております。

紹介状をお持ちの方につきましては、できる限りの対応をさせていただいておりますが、受診日については、ご希望に添えないこともございますので、紹介状をお持ちの方は、なるべく初診予約をされてからのご来院をお願いいたします。

なお、患者さんからの直接の予約も対応いたしますので、地域医療連携センターにご連絡ください。

地域の先生方には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

(外来担当表)

月	火	水	木	金
佐藤 典子	勝田 倫江	勝田 倫江	狩野 葉子	新田 桐子
		平原 和久	勝田 倫江	

【※月、火は外来混雑日です。】

小児科よりお知らせ

4月1日より、小児科の救急医療体制については以下の通り変更となっております。ご紹介患者さんがおりましたら、一度お電話でご相談ください。

(救急対応表)

月	火	水	木	金	土・日・祝
21時まで	21時まで	17時まで		17時まで	9時30～ 10時30分

～ご挨拶～ 地域医療連携センター副センター長 蓑島 京子

この4月より、医療安全管理室から異動となり、早1ヶ月が経ちました。医療連携については、まだわからない点も多くありますが、地域の先生方や施設の皆様と良好な医療連携が推進できるよう、努力してまいりますので、今度ともよろしくお願い申し上げます。

